

exam-philosophy

問い

1:引用あてクイズ思想家の思想内容の特徴的に示すから誰の言葉かを当てる問題。4×5 20 点 2:授業の中のキーワードにあたる言葉を 5~7 行で説明。用語説明の問題 3 問から 2 問選ぶ 15×2 30 点 3:全体の議論をつなぐような問題をだす。自由に持論を展開する。今日のような内容。50 点配当問題。

Outline

1. 近代世界における公私関係の変容と政治の可能性

- Public・公・おほやけ
- 古代ギリシャにおける公的生活
- 超国家主義・公共性の再定義・「開かれた社会」

2. J.Habermas と公共圏の成立・解体・再興(ハーバーマス)

- Habermas 『公共性の構造転換』
- 公共性・封建制・ノーランチャート・国家規制の正当化・組織内民主主義
- ハーバーマスの問題点 -> 資格要件問題・マス・メディア

3. H.Arendt 手すりなき思考(アレント)

- 公共圏の政治・ユダヤ人問題・アレントのアリストテレス解釈と学問区分
- 言葉による相互行為・カントの「三批判」・全体主義
- イデオロギーとテロル・故郷喪失・権力と「強さ」・アレントの公共空間・強制収容所

4. 「主権」をめぐる問題 合法性と正統性

- リベラルと共和主義・Habermas の熟議民主主義・法と政治
- 政治の法化・立憲主義・9 条増加憲・法の政治化・民主すぎ
- M.Weber の正統性 3 類型(合法的・伝統的・カリスマ的支配)・主権正統性暴力・憲法制定権力
- 超越者=構成的外部の位置・抵抗権・憲法制定暴力・近代主権国家
- ホモ・サケル・収容所パラダイム下にある現代政治・悪法は法ならず

5. 平和とは何か(1)

- 平和と安全保障・儒学的な世界の自然的連続性・戦争と平和
- 最高度緊急事態 Supreme Emergency・Walzer の「政治」「哲学」・義務論・功利主義批判
- 正義と平和・構造的暴力・不平等な世界(ジニ係数)・暴力の類型
- 帝国主義の構造・封建的中心・日本国憲法前文

6. 平和とはなにか(2)

- 日本国憲法前文・国際社会の普遍的正義の基準の不在・秩序と平和
- 法=秩序の創出・心の問題・民主主義と平和=Democratic Peace
- 神話性・シビリアンの戦争・侵略戦争

- 絶対的平和主義・人道的介入・積極的平和主義

7. 戦争廃絶論の思想史

- 戦争廃絶論・憲法 9 条・サンピエール・ヨーロッパ恒久平和草案
- ジャン=ジャック・ルソー・ルソーの戦争防止策・両義的なルソーの政治思想
- カントの永久平和論・戦争の「進化」・新しい戦争・「永遠平和のための確定条項」

8. カントの世界平和市民主義

- 「永遠平和のための確定条項」・民主主義と平和・平和論における国家連合構想・カントの「共和制」
- 世界共和国構想・理論と実践・人権のアポリアと人道的介入
- 道徳と法律・矛盾の解消・永遠平和
- 永遠平和のための確定条項・世界市民主義の位置・『他者の権利』セイラ・ベンハビブ
- カントの道徳的リゴリズムの問題性・政治における詭弁的格率
- 絶対的な倫理の責任倫理・心情倫理
- カントの問題性

9. 正戦

- bellum justum(正戦論)・正戦論の意義と問題
- jus ad bellum(戦争への正義:開戦法規)
- jus in bello(戦争における正義:交戦法規)
- jus post bellum(戦争の後の正義)
- 正戦論の破綻・戦争コントロールの破綻・正戦論の変容
- ゲリラ戦・ハーグ陸戦条約・jus in bello の崩壊
- 20 世紀における正戦論の部分的復活
- マルクス主義・世界の警察アメリカ・国連の集団安全保障体制
- 国連が許容する武力行使

10. 正戦論の現在

- 正戦論の破綻・戦争コントロールの破綻・正戦論の変容
- ゲリラ戦・ハーグ陸戦条約・jus in bello の崩壊
- 20 世紀における正戦論の部分的復活
- マルクス主義・世界の警察アメリカ・国連の集団安全保障体制
- 国連が許容する武力行使・国連の限界・国連の予算(通常予算と PKO 予算)
- 国連拠出金・分担金・国際刑事裁判所
- 大量虐殺・戦争犯罪・NGO の台頭

11. 人道的干渉?

- 人道的干渉と正戦論・武力不行使原則の確立・国連が許容するふたつの武力行使
- 保護する責任・人的干渉の条件
- 類似概念としての「ジェノサイド」・人道的干渉問題の浮上
- 人権もユスコーゲンス
- 小数説・人道的干渉の非正戦化・イデオロギーとしての人道的干渉

12. 戦争責任論・戦後責任論

- 戦争犯罪の裁き・戦争犯罪の相違
- ヤスパース『戦争の犯罪を問う』
- ヴァイツェッカー演説「ドイツの良心」
- 道徳的罪・形而上学的罪
- 応報原理と修復原理
- 刑事司法と修復的正義
- 青山学院高等部入試問題(2005)事件

13. 政治(指導者)の暴力「汚れた手」問題

- ウォルツァーにおける政治と哲学
- 汚れたての問題・サルトル『汚れた手』
- テロリストへの拷問の容認 teleology/deontology 再論
- パスカルの『パンセ』正義は論議の種になる・正しい・強いもの
- 正戦論の位置・道徳的ジレンマへの対応

14. ポスト・ウォー・シティズンシップを求めて

- 古くて新しい「市民社会論」
- 家族・市民社会・国家(Hegel)
- 新しいシティズンシップ
- 反暴力・コスモポリタニズム・ナショナリズムの問題性
- アイデンティティ/ポスト・リベラル・デモクラシー
- 参加と連帯
- スマトラ沖地震・民間寄付が政府支援を上回った国
- 承認の政治学・biosの相互承認・zoeの相互承認
- 記憶と忘却のあいだ・リーヴィのパラドックス
- アウシュヴィッツと市民社会
- 同情(Mitleid)から友情(Mitfreude)へ

引用

1.

- 丸山眞男と<近代的主体>
- 上沼千鶴子『生き延びるための思想』
- 柴田寿子『スピノザの政治思想 デモクラシーのもうひとつの可能性』

3.

- ハンナ・アレント『革命について』
- Konstellation: 『手すりなき思考』
- G アガンベン『ホモ・サケル』

4.

- G アガンベン『ホモ・サケル』

- 大沢秀介
- 篠田英朗 『ほんとうの憲法のウソ』
- 難民と無国籍者の登場(Arendt)=アレント
- Homo Sacer (Giorgio Agamben)=アガンベン

5.

- 教育勅語
- Michael Walzer Just and Unjust Wars 『正しい戦争と不正な戦争』
- 杉田敦 『境界線の政治学』
- J.ガルトゥングの「構造的暴力」論
- 日本国憲法前文

6.

- 緒方貞子語録
- 『文明の衝突』 S. Huntington
- アガンベン 『例外状態』
- Romain Rolland・UNESCO 憲章前文・野田正彰 『戦争と罪責』
- シビリアンの戦争
- Bruce Bueno de Mesquita & Alastair Smith 『独裁者のためのハンドブック』
- カント、平和条約

7.

- ルソー 『社会契約論』
- カントの永久平和論

8.

- カントの平和論(1795)における国家連合構想
- カントの「理論と実践」=世界共和国構想
- Hobbes, Leviathan
- 『他者の権利』 セイラ・ベンハビブ

9.10.

- H.Grotius 『戦争と平和の法』
- 土井弘之 「移行期における正義」
- M. Waizer, Arguing about War
- 1949 ジュネーブ 4 条約 「戦争状態」が生じた後にはじめて適用される法としての国際法
- ハーグ陸戦条約 戦闘員
- カール・シュミット 『パルチザンの理論』
- マイケル・ウォルツァー 『正しい戦争と不正な戦争』
- ジノヴィエフの戦争論 『戦争問題の私的考察』 防衛戦争と侵略戦争の区別の無効性
- パスカル 『パンセ』 =正義と基準としての「力こそ正義」
- 第 51 条・Article 5 of the North Atlantic Treaty

11.

- 国連憲章第二条・第 51 条・保護する責任 2001・12 エヴァンス/サヌーン委員会報告
- 藤田久一『戦争犯罪とはなにか』
- 国際軍事裁判所憲章六条
- Walzer の人道的干渉論
- 新しい正戦の条件(最上敏樹) 国際連帯主義の存在

12.

- イアン・ブルマ『戦争の記憶』
- 『正義への責任』I.M.ヤング 構造的不正義・「つながりモデル」
- ハワード・ゼア『修復的司法とは何か』 応報原理・修復原理
- 土佐弘之「移行期における正義」再考 矯正的正義・修復的正義

13.

- 泰野章
- パスカルの『パンセ』 正義は論議の種になる・正しい・強いもの
- マキアヴェッリの『ディスコルシ』 ジレンマを最初に意識した思想家
- ウェーバーの『職業としての政治』 悲劇の英雄としての政治家
- カミュの『正義の人々』 カリヤーエフ・innocent criminals・市民的服従
- ウォルツァー『政治的に考える』 マキアヴェッリ

14.

- 家族・市民社会・国家(Hegel)
- 「人の苦しみは、それを見たものに義務を負わせる」(P.Ricoeur)
- G.アガンベン『アウシュヴィッツの残りのもの』